

論文要旨

氏名	秋山 理加
タイトル (日英併記)	介護施設利用高齢者における簡易嚥下状態評価票 (EAT-10) と 口腔内環境, 口腔機能, 栄養状態との関連 Association of Eating Assessment Tool-10 results with oral hygiene and function, and nutritional status in elderly individuals housed in long-term care facility
論文の要旨 (日本語で記載)	
【目的】 簡易嚥下状態評価票 (EAT-10) と口腔内環境, 口腔機能および栄養状態との関連性を, 反復唾液嚥下テスト (RSST) との比較により明らかにすることを目的とした。	
【対象および方法】 介護施設利用高齢者 90 名 (男性 21 名, 女性 69 名, 平均年齢 86.0 ± 7.2 歳) を対象とした。歯面清掃度などの口腔内環境因子, 開口度などの咀嚼機能の因子, 自覚症状の因子および簡易栄養状態評価 (MNA-SF) を用いて, EAT-10 および RSST による嚥下機能リスク群と良好群で比較検討を行い, パス解析を行った。	
【結果】 EAT-10 による嚥下機能リスク群では, 歯面清掃度, 開口度, 飲み込みにくさおよびむせの自覚症状との間に有意な関連がみられ, 一方, RSST による嚥下機能リスク群では, 開口度, 舌運動, 噛める食品数, 飲み込みにくさおよびむせの自覚症状, MNA-SF との間に有意な関連がみられた。これらの因子を用いたパス解析の結果, EAT-10 と RSST との間に弱い相関を認め, EAT-10 からは歯面清掃度, 舌の汚れ, 飲み込みにくさおよびむせの自覚症状へのパスが示され, RSST からは舌運動と噛める食品数, MNA-SF へのパスが示された。	
【結論】 EAT-10 は主に口腔内環境因子と自覚症状因子への影響が示されたのに対し, RSST は主に咀嚼機能の因子と栄養状態の因子への影響が示された。EAT-10 による嚥下スクリーニングは RSST を用いた場合と相関するものの, その性質は大きく異なっていることが分かった。	